

# 水稻の『倒伏』の原因と対策！

農業者の皆さん。稲刈り作業お疲れ様です。令和6年産米は倒伏している稲が目立ち大変難儀な稲刈りとなってしまいました。近年の気候変動の影響で、予定していたような作業ができなかったり、予想した生育にならなかったり、今まで培ってきた経験とズレていると感じる方も多いかと思えます。そのような状況だからこそ今のうちに

『倒伏』について、来年に向けて対策を考えてみましょう！



## 1. まず知ろう「倒伏」の種類について

- 挫折型倒伏**：ワラの節間の部分(特に第4、第5節間の下位節間)が折れてしまう倒伏。
- わん曲型倒伏**：節間は折れないが節の部分が曲がり、穂が地面についてしまう倒伏。
- 転び方倒伏**：節間や節には異常がないが、根張りがしっかりしていないために株全体が棒倒しのように倒れてしまう倒伏。直播に起こりやすい。



皆さんの倒伏してしまった稲はどの種類に該当しますか？

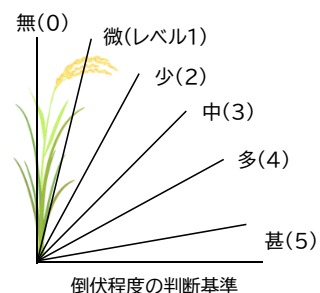
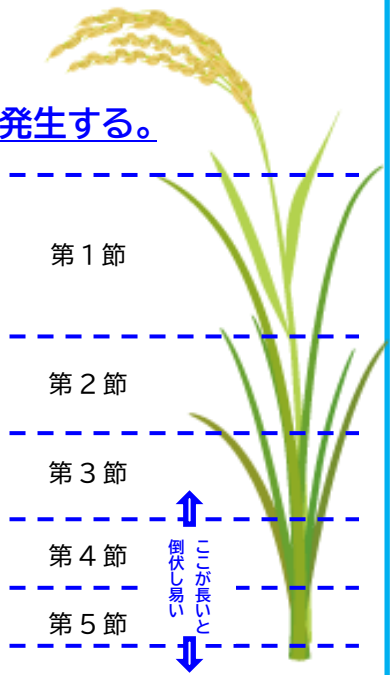
どの圃場がどう倒伏したか？を『記録しておくこと』も来年への対策になります！

## 2. まず知ろう「倒伏」の発生の原因について

◆倒伏は下位節間が伸長し稈長(草丈)が長くなることによって発生する。

◆下位節間(第4、第5節間)の伸長は、これらの節間の伸長時期である「穂首分化期(出穂30日前頃)」から「幼穂形成期(出穂25日前頃)」における稈基部(稲株の下側)の積算日射量と負の相関がある。

【秋田県農林水産部 稲作指導指針より】



倒伏は本当に厄介ですね。稲刈作業が困難になるし、品質の低下も招きます。「倒伏の対策」は裏面に続きます☆



引用・転載：開発肥料(株)倒伏軽減対策 資料

### 3. ポイント「倒伏」の防止や対策について

◆ 少し振り返りです。ご自分の7月上～中旬頃の稲姿や天候などを思い出して下さい。

- ・基肥の「施肥量」は適切でしたか？ 生育が「過繁茂」ではありませんでしたか？
- ・その頃は「曇雨天」が続いていませんか？ 「中干し」はできましたか？
- ・「紋枯病」が発生していませんか？ ・「追肥」は適量でしたか？
- ・「水田雑草が繁茂」していませんか？
- ・「株元が日照不足」ではありませんでしたか？

#### 防止・対策

今年の教訓を活かそう！



① 施肥：窒素肥料の施用量が多いと倒伏しやすくなる。(下位節間が伸び易くなる。)

⇒ 『窒素量を抑える』または『ケイ酸の施用により窒素の吸収を抑える』

※稲わらの残量は多いか？堆肥を連用しているか？なども含めて検討し対策をしましょう。

② 中干し：中干しが不十分だと根張りが劣り、倒伏しやすくなります。

⇒ 中干しのタイミングは、6月下旬ころの最高分けつ期に強勢茎を確保したら速やかに  
行うことが理想です。または、中干し前に深水処理をすることで弱勢茎(無効茎)を  
抑制でき、**幼穂形成期に『株元に十分光が当たるようにする』**ことも対策になります。

③ 防除：紋枯病が発生していると、倒伏の抵抗力が極端に低下します。

⇒ 紋枯病は、圃場内に残存している菌核が越冬し、代掻きにより水面に浮上し株元に  
漂着します。気温が22℃を超え、株間が湿潤状態になると感染しやすくなります。

『幼穂形成期～乳熟期の防除』や『常に発生する場合は箱処理剤での防除』も行う。

※紋枯病も『過繁茂』な稲に発生が多く見られますので、施肥とあわせて検討しましょう。

④ 倒伏軽減剤：上記までの技術等で防止や対策を実施しても倒伏しそう場合のみ。

⇒ 中干しができない、雨天が続き気温が高いなど『やむを得ない緊急手段』で検討する。



**倒伏には「ケイ酸・加里」での対策がおすすめ！**

ケイ酸や加里を施用すると耐倒伏性を高められるようです。

☆稲の葉をピンと立たせ、株元まで光が差し込む。

☆下位節間の充実度が高まり、倒伏に強くなる。

～ご相談・ご注文は 担い手支援課・営農センター・資材店へ～

今すぐできる対策は JAの “バラ散布” (ケイカル砂状) です！

強くなった！



バラ散布とは別の  
「けい酸加里プレミア 34」  
もオススメです！

